
美希外伝

隣のマニア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

美希外伝

【著者名】

隣のマニア

N4238D

【あらすじ】

ある日、美希はハヤテに恋をした。そして彼女は告白しようとしている。これはそれを描いた物語である。

いつ頃からだらう

私がある人を気になりだしたのは・・・

いつも私達のいたずらを受けても笑つて居るその優しい・・・

いつの間にか好きになっていた・・・

けれどもあなたは沢山の人に関わる人・・・

ナギや歩むてこつ子やあのヒナ元さん・・・

だから私はずっと黙つていた・・・

そうするしか出来なかつた・・・

だけどそれじゃあダメだつて氣付いた・・・

だから今日は告白すると決めたんだ!

約束の時間まで、

あと五分。

「ついにここまで来てしまつたな・・・」

美希は今、体育館の裏にいる。

丁度日陰になつていて普段は人氣があまりない場所だ。
時刻は4時55分をまわつた所。

「ハヤ太君は来てくれるだらうか・・・」

待ち合わせ場所で自分ひとりになると不思議と不安が沸いてくる。
昼休みに渡した手紙はちゃんと読まれたか、
読んでも忘れられないか、

考えれば考えるほどマイナス思考な考えばかり浮かんでくる。
それでもひたすらに待ち続ける。

1分が1時間のように感じられる。

しかし、自分が今まで耐えてきた苦しみに比べたらどうかことは
ない。

好きな人に好きだといえないことは、私にはすごく辛いことだった。
相談できる人もなく、ずっと一人で背負い込んでいた。

そんな時、ハヤ太君を見て思つたんだ。

彼は私よりずっと苦しいことにずっと耐えて頑張つている。なら私
も勇気を出さなければと。

一度決心がついてからはすぐに行動に移せた。

その日のうちに手紙を書いてハヤ太君に渡した。

そして今、私はここで彼が来るのを待つてゐる。

丁度時計が5時を指した。

「ハヤ太君、本当に来ないんじゃ・・・」

だんだんと不安が心の中を埋め尽くしていく。
しかし、あわただしく響いてきた足音の方を見ると、それはきれい
さっぱり消え失せた。

視線の先には息を切らしたハヤテがいる。

心の重荷が取れて、いつもの自分に戻つていいくのが自分でもわかる。
いつもの癖でからかう事が出来るほどに。

「遅いじゃないかハヤ太君。レディーを待たせるとは感心しないな」
「すみません。お嬢様がなかなか離してくれなくて遅れてしまいま
した」

ハヤテはいつものへラツとした笑顔を振りまく。
美希はそれにつきしつつとりしそうになつたが、すぐに自分の目的
を思い出した。

「それでだな、大事な話の事なんだが・・・」
美希はそこまで言つと、口を閉じてしまった。
ここまでなんとか話は切り出せた。

しかし、急に緊張感が襲つてきてそれ以上しゃべることができない。
次に話すことは頭ではわかっているのに、体が言うことを聞いてく
れない。

しばらく黙り込むことしかできなかつた。

「それで何の話なんですか？」

急に静かになつた美希をハヤテは不思議に思つた。
しかし、それを聞いて美希の中で何かが切れた。

「なあ、ハヤ太君。夕方、体育館裏に呼び出されたこのシチュエーションだったら少しは感づいているんだろう?」

頭の中では分かっている。

ハヤテにはデフォルトで鈍感のライセンスが備わっている。
でも、さすがにこれはないんじゃないかな?

私がこんなに一生懸命頑張っているのに・・・

それでもハヤテはわからないという顔をしている。
これで美希の中のスイッチが完全に入ってしまった。

「そんなに分からんだったら教えてやる!」

私、花菱美希はな、

お前の事が好きなんだよ!」

そして、ハヤテの胸元へ飛び込んだ・・・

頭の熱が徐々に冷めてくる。

あーあ、私あんな告白したのか・・・

もつとかちゃんと並つもつだつたのにな・・・

まあ、ハヤ太君に抱かれているからいつか・・・

瞑つていた目を開けてみる。

そこにはハヤテの執事服しかなかつた。

上を見るとハヤテの顔があつた。

そこからは冷たい雰が静に伝わり、落ちている。

すると、美希の背中に優しく何かが押すするを感じた。

「うれしいです、花菱さん・・・・

実は僕も・・・・

ハヤテはその次は言葉はさえぎられた。

やさしく柔らかいものによつて。

「もう何も言わなくていいから・・・・

ただ私を幸せにしてくれれば・・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4238d/>

美希外伝

2010年10月10日00時45分発行